

## シンガポールにおける国民統合—包摂と排除の観点から—

坂口可奈

本論文は、シンガポールの国家建設過程を包摂と排除の観点から問い直したものである。

シンガポールは、三つの顔を持っている。多民族国家、能力主義国家、外国人受け入れ国家というものである。シンガポールという国家の全体像を探るには、この三側面からの分析が不可欠だと考えられる。そこで、本論文では、「多人種主義」、能力主義（メリトクラシー）、外国人人材の三つに焦点を当て、包摂と排除の枠組みを使用してシンガポールの国家建設過程を分析した。

「多人種主義」と能力主義は、シンガポールの国家神話である。これらは、概念として存在するのではなく、シンガポール人の生活に密接にかかわっている。また、外国人人材は、現在シンガポール人口の三分の一を占める。この割合の高さを考慮にいれるならば、彼らもまたシンガポールを構成する一つの要素である。そこで、それぞれ章を建て、国家建設過程に与えた影響と問題点を分析した。特に、能力主義は社会保障と関連させて論じた。

第一章では、シンガポールの歴史を繙いた。テマセック時代からイギリス植民地を経て、シンガポール共和国が成立するまでを概観した。そして、シンガポールの国家アイデンティティを分析した。本章では、歴史記述を通して、シンガポールが「多人種主義」と能力主義を採用した理由及び外国人人材を多く受け入れる理由を明らかにしている。

第二章では、「多人種主義」が持つメカニズムと問題点を指摘した。「多人種主義」は、シンガポールを構成する四つの「人種」（華人、マレー人、インド人、その他）の平等を謳うイデオロギーである。ここでは、「人種」のサブ・カテゴリであるエスニシティに焦点を当て、「多人種主義」を分析した。その結果、「多人種主義」の構造と問題点を明らかにすることができた。すなわち、「多人種主義」は、公的空間1と公的空間2（狭間の空間）、そして私的空間の三層構造を持つというものである。本章では、多様性の一元的管理という問題点は、この構造によって隠されている点を指摘した。

第三章では、能力主義の問題点を指摘した。シンガポールは、天然資源を持たないために、人的資源に頼るしかない。そこで、シンガポールは「能力のある人材」を選抜・育成するためのシステムとして能力主義を採用した。能力主義が社会に浸透した結果、現在のシンガポールでは、学歴と所得は相関関係にある。同時に、能力主義は、成功の定義を一元化させ、社会を硬直化させることとなった。これは、競争を激化させ、人々

のストレスを増大させている。さらに、シンガポール社会では、「学業以外では成功する可能性」がある人々や「経済面以外で社会に貢献できる人々」が認められなくなっている。

第四章では、能力主義の選抜から零れ落ちた人々や高齢者を救済するための社会保障について明らかにした。シンガポール政府は、人々に自助努力を求める。そのため、社会保障は非常に限定されたものとなっている。民間部門が政府の社会保障の穴を埋めているものの、それでもなお社会保障は不十分である。この状態は、人々に生活への不安感を与えている。さらに、不十分な社会保障は、社会の硬直性を悪化させる。シンガポールでは老後資金は給与から一定割合を拠出する自己積立方式となっている。老後の生活は、現役時代の所得に依存する。そのため、人々は、より良い給料を得るためには、「学業上の成功」をおさめる必要がある。限定された社会保障は、恵まれない人々を周辺化させるだけでなく、能力主義の競争も激化させている。

第五章では、「多人種主義」と能力主義と関連させて、外国人人材の問題を扱った。外国人の流入は、シンガポールの国家神話を崩壊させつつある。公的空間における民族的多様性が増大し、さらに「人種」内でもシンガポール人と新移民の分断も発生している。もはや、四つの多様性のみを承認する「多人種主義」のもとでは、多様な人々を統合できなくなっている。また、外国人人材（特に外国人高度人材）の流入は、シンガポール人だけでなく外国人高度人材との競争を意味している。従来の競争での指標となりえたものは通用しなくなっている。この点では、能力主義は、競争の「勝者」に対する報酬を保証できなくなっている。

結局のところ、シンガポールは一元的な価値観に支配された社会であった。すなわち、「四つの多様性、経済上の成功」という価値観である。一元的な価値観は、経済発展には必要であった。しかし、シンガポールは経済発展を追求した結果、社会発展を後回しにしてしまったのである。その結果、一部の人々はシンガポールの発展に取り残され、社会の主流から排除された状態となっている。いうなれば、シンガポール政府が国家の「生き残り」のために行ってきた方策は、現在では生き残りの阻害要因へと変化しているのである。

経済発展を基軸にした国家建設は成功したが、国民というソフト面を考慮にいれる国民統合はいまだ完成していない。シンガポールの今後の課題は、国民一人ひとりが満足のできる生活を送ることができ、文化的に豊かで、高齢者や社会的弱者にも行き届いたケアのできる社会をいかに作り上げるかというものであろう。最後にそのための指針を提示して本研究は論を終える。